

さぬき・東かがわ支部 活動報告

1 研究主題

生き抜く力を育むメディア教育の在り方
学ぶ力の習得を目指して

2 研究主題のねらい

今日の情報技術の発展により、我々は空間的、時間的制限を受けず、多様な情報や意見を得ることができるようになってきた。しかし、それらの情報はあまりにも膨大で、やり取りの方法も多種多様である。その中で、自分にとって本当に必要な情報を精査したり、的確に判断したり、うまく相手に伝えたりする力を備えなければ、かえって時間を浪費したり、トラブルに遭遇したりする可能性が高まる社会でもある。また、現時点の情報技術の知識や対応方法を学んでも、急速に進展する今日では、それらの知識はすぐに陳腐化してしまうことも少なくない。

そこで、自分の考えを深化させる普遍的な活動(必要な情報を正確に調べ・比較したり、適切に表現・評価したりする活動)や、適切なコミュニケーション活動を通して、学び続ける力を身に付けることは、重要性を増すと考えられる。

県大会を開催する今年度を良い機会と捉え、全体提案や公開授業、大会運営について全部会員が交流を深め、各自の資質を向上できるよう研修会を企画した。

3 研究計画

(1) 第1回研修会

- ① 日時：4月30日(木)
- ② 場所：さぬき市立さぬき南中学校
- ③ 内容：研究主題・組織・計画他

(2) 第2回研修会

- ① 日時：7月29日(水) 9:00～12:00
- ② 場所：東かがわ市立引田中学校
- ③ 内容：全体提案事前研究他

(3) 香中研メディア教育部会夏季研修会

- ① 日時：8月20日(木) 9:00～12:00
- ② 場所：eーとぴあ・かがわ
- ③ 内容：全体提案・講話他

(4) 第3回研修会

- ① 日時：10月22日(木) 13:30～16:30
- ② 場所：さぬき市立さぬき南中学校
- ③ 内容：研究授業・討議他

(5) 香中研メディア教育研究大会

- ① 日時：11月5日(木) 13:15～16:10
- ② 場所：東かがわ市立引田中学校
- ③ 内容：研究授業・討議他

4 実践内容

(1) 第2回研修会及び香中研夏季研修会

① 第2回研修会

ア 県大会全体提案について

主に会場校の引田中学校の取り組みについて、プレゼンテーションが行われた。その後、各部会員から質問や改善点の提案が行われた。より多くの意見を集めるために、プレゼンテーションのスライドを一枚ずつ印刷・掲示し、各部会員が改善点を付箋で貼っていくことで、多くの意見を集約することができた。

イ 県大会の運営について

会場校より県大会当日の運営案が提示され、その内容の検討と役割の分担について協議した。

② 香中研夏季研修会

ア 全体提案

第2回研修会の協議に基づいて改善した提案プレゼンテーションを行い、今回の発表の特色である小中連携によるリテラシーやモラルについての指導やメディア機器の

活用について県下の部会員に提案することができた。

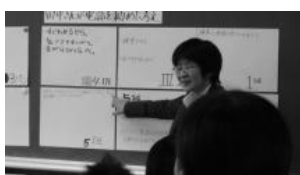
イ 指導講話

香川県教育委員会義務教育課主任指導主事
北堀 宏 氏

(2) 第3回研修会

① 研究授業及び授業討議

県大会の事前研究として、公開予定の指導案を用いて、さぬき南中学校で研究授業を行った。電話やメール、SNSの特徴について、状況にふさわしい連絡手段を選択することについて考えることができた。



その後の授業討議では、導入部分の各連絡手段の特徴やまとめ方等について、活発な意見交換が行われ、県大会に向けた充実した事前研修となった。

② 県大会運営について

大会運営について、当日の部会員の動きや準備物の確認など、最終打ち合わせを行った。

(3) 香中研メディア教育研究大会

① 研究授業及び授業討議

ア 第1学年 保健体育

器械運動「マット運動」

タブレットPCや大型ディスプレイを活用し、自分の動きを客観的に捉えたり、模範演技を参考にしたりできる環境を整えた授業を公開した。

イ 第2学年 総合的な学習の時間

「夢の実現に向けて ～職場体験学習での
発見と学びを発信しよう～」

小・中学校の系統化したメディア学習及び総合的な学習の時間を通し、職場体験のレポートに基づいて小学生や同級生にプレゼンテーションを実施した。

ウ 第3学年 学級活動「遅刻の連絡」

メディアツールの特徴を振り返り、遅刻の連絡という日常的な場面における適切な

対応について考え、相手に配慮したコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を目指した授業を公開した。

② 指導講話

香川県教育委員会義務教育課主任指導主事
大浦 静二氏

5 反省と今後の課題

(1) 今年度の研修について

① 県大会開催校の取り組みについて

小・中学校でメディア機器を共有し、指導を系統化したことで、中学校では基本操作を習得する時間を省くことができ、効率よく発展的な学習活動を展開することが可能になった。また、情報モラルの生徒指導的課題について、小中の教員間で定期的に情報交換を行うようになり、共通認識を持って取り組むことができるようになった。メディア機器は生徒の学習活動や教師の指導を補助するツールであり、適切に活用すれば、効率よく授業を展開したり、生徒の好奇心を喚起したりすることができることが分かった。

② 支部としての取り組みについて

県大会の事前研修会として、全体提案について協議したり、公開授業のリハーサルをさぬき南中学校で実施したりした。それぞれの研修会で部会員の実践交流を深め、県大会が充実した研修会となった。

(2) 来年度へ向けて

各中学校のICT機器の整備・活用状況については、それぞれ特色が見られるようになってきている。今後は、それらを活用した実践についての情報交換や連携を深めていきたい。また、これから整備を計画している学校の参考となる交流の場にしたい。タブレットPCや電子黒板等、整備されたメディア機器の適材適所について研究を深め、これらを活用したアクティブラーニングなど、更に充実・発展した教育実践活動ができるように更に研修を深めていきたい。